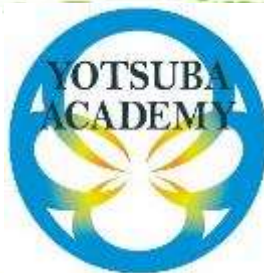


四つ葉学園

小中一貫教育だより



2022年7月20日

No.1

四つ葉学園
小中一貫教育推進協議会
評価・広報部会

あいさつを大切に活動しています！

四つ葉学園 学園長 吉田 勇一

あいさつもできない人間に何ができるのか！

高校生の頃、母から言われた言葉です。近所の人があいさつしたにもかかわらず、私があいさつを返さなかったことが原因のようでした。「ようでした」と言うのは、自分には、その自覚がなかったからです。母は、人から聞いたのか、それともその場を見ていたのか分かりません。ただ、ものすごい剣幕で私を叱り続けました。

あいさつは生活そのものです。ですから、お互い、あいさつを通して、相手の人となりを知ることになります。あいさつは、自分自身を相手に伝える最も身近な手段です。したがって、たくさんの人と関わり合って成長する子どもたちにとって、あいさつは、とても大切な役割を果たしています。

母から言われた「あいさつもできない人間に何ができるのか！」という言葉。母は、あいさつは特別なものでなく、生活そのものであることを教えてくれました。

生活そのものであるあいさつがしっかりできる四つ葉学園の子どもたちです。そんな子どもたちと一緒に過ごせることに感謝しています。

四つ葉学園では、今年度も4月から様々な活動を行っています。旭小が中心に進める学力向上部、評価・広報活動部、井栗小が中心に進める豊かな心の育成部、保内小が中心に進める健康・体力向上部、第四中が中心に進める防災教育部、特別支援教育部、財務部、4校がそれぞれの役割を担い、力を合わせて活動しています。目的は同じです。子どもたちの健やかな成長です。

生活そのものであるあいさつを大切に、様々な活動を展開してまいります。1学期ありがとうございました。2学期もよろしくお願いいたします。



あいさつ運動（於：井栗小）

令和4年度 四つ葉学園 小中一貫教育グランドデザイン

教育の重点（柱）

- 1 地域と連携した教育の充実
- 2 三点固定※(眠育中心)運動の推進
- 3 人間関係づくり活動の充実

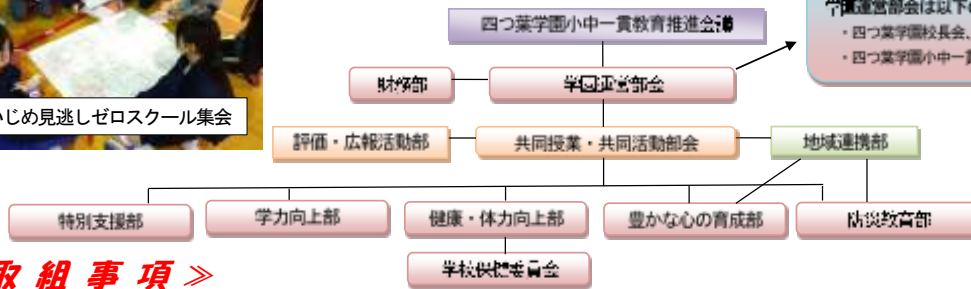


《 目指す児童生徒像 》

9年間の学びの中で
絆を深め、ともに伸びる子ども



★ 推進組織 ★



四つ葉学園小中一貫教育を推進する中核となる組織です。
竹園運営部会は以下の会を含む

- 四つ葉学園校長会、教頭会
- コーディネーター会
- 四つ葉学園小中一貫カリキュラム作成会
- 各課長会



《 取組事項 》



学力向上部

「自ら学ぶ子ども」

- 各期の発達段階に応じた指導の工夫
- 学びのガイドによる学ぶ構えの点検
- 家庭学習習慣化の推進 (6月・11月)
- 学力分析と乗り入れ授業の推進 (5学年)
- 小中交流授業研修の開催 (年々1回)
- 小中共同の単元構成の工夫、Webテスト推進と分析 (5学年)
- 小中一貫教育カリキュラムの作成と活用
- 校区化、自校化の作成と評価の工夫 (7月)
- 学力向上部会による定期研究カリキュラム実践状況分析と評価活動 (5学年)

特別支援部

- 一貫指導
- 四つ葉学園内で特別に支援を要する児童生徒を9年間継続した指導
- 研修と啓発活動
- 特別支援教育の研修と啓発活動を推進



豊かな心の育成部

「自分からあいさつし、かかわりをもとうとする子ども」

- 豊かな心を育む交流活動と教育の推進
- 三小、小中交流の推進 (5学年)
- いじめ見逃しゼロスクール運動の推進 (11月)
- 心の教育の推進
- 地域、保護者とともに推進する「あいさつ運動」(6月・9月)
- 人間関係づくりの活動の充実(P.A.、S.G.E.、S.S.T.)
- 中1ギャップ解消の工夫
- 中一ギャップ解消プログラムの小中一貫の視点からの見直しと共通した取組の実践
- 情報共有のための指導係票の作成 (6月)
- 個票の統一と小中間での情報引き継ぎと共有 (1月～3月)

評価・広報部

- 広報定版
- 四つ葉学園小中一貫だよりの発行 (児童生徒・保護者・地域対象) 二年3回発行予定)
- 評価定版
- 年度の取組を振り返る児童生徒、保護者、地域代表、教職員対象のアンケート (12月・1月)



健康・体力向上部

「自らの生活習慣を見つめ、進んで健康つくりと体力つくりをする子ども」

- 新しい生活習慣の育成
- 健康生活上習慣の取組 (5月・10月)
- 保護者と中学校区で取り組む生活習慣「取組」の推進 (学園学校保健委員会開催)
- 子育て支援課の眠育事業の活用 (5学年)
- 体力向上の取組
- 体力向上カードの小中共有化 (6月)
- 小6合同陸上練習会 (7月)
- 体力テストの結果分析 (7月)
- 児童生徒の健康に関する情報交換 (3月)

防災教育部

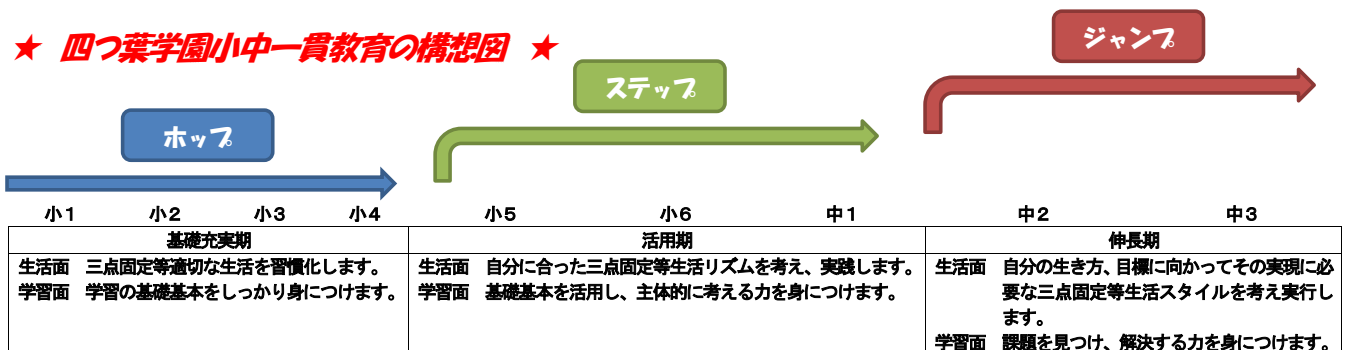
「自己の命を守り地域の安全に貢献する子ども」

- 小中合同地域防災教育
- 防災教育プログラムの自校化

三小・小中交流

- 三小交流 (小1～小6) ⇒人間関係づくり
- 小中交流⇒ブリッジスクール (年2回)

★ 四つ葉学園小中一貫教育の構想図 ★



※ 三点固定：起床時間・家庭学習開始時間・就寝時間を固定すること

第1回家庭学習強調旬間 4月13日～22日

四つ葉学園では、今年度も家庭学習の習慣化を図るため、4月13日から10日間、「家庭学習強調旬間」を設けました。この期間は毎日、各学年の目標時間を設定し、期間全体の平均で学年の目標時間達成を目指すよう取り組みました。(中学生を7・8・9年生として学年×10分)

3小学校と中学校で目標に向けて頑張った結果、学年の平均学習時間の達成率は89%でした。また、めあての時間を超えた日が8日以上達成率には、バラツキが見られました。今後は、児童生徒の振り返りや保護者の感想をもとに、児童生徒一人一人の学習習慣の向上につなげていきます。第2回の取組は、11月の予定です。

四つ葉学園一斉あいさつ運動 6月7日～13日

第1回のあいさつ運動は、各校に他校の職員が行き、一緒にあいさつ運動に参加しました。委員会や各学年の児童生徒が玄関に立ち、あいさつを広めようと積極的に取り組みました。あいさつへの意識も高まり、元気な声が玄関前に響きました。また、土・日曜日を挟むことで、家族や地域の方へのあいさつを促すなど、工夫して取り組みました。児童生徒の自己評価は、「自分からあいさつできた(約94%)」「相手の目を見てはっきりと言えることができた(約88%)」「家の人にあいさつできた(約92%)」とよい結果でした。児童生徒の振り返りからは、「自分からあいさつすると、地域の人や学校の先生も笑顔であいさつしてくれることが分かった」「あいさつの仕方について、今回の取り組みを通してもう一度見直すことができた」という前向きな意見が多く見られました。

第2回あいさつ運動は9月1日(木)～9月7日(水)に実施します。あいさつ運動期間が終わっても引き続き明るいあいさつが飛び交う四つ葉学園となるよう指導していきます。



小中交流授業（保内小） 6月27日

保内小学校では、「対話的活動を通して、考えを広げ、深める子どもの育成」を目指して、日々の授業づくりをしています。この日は、3年「たし算とひき算」の授業を公開しました。

たし算とひき算の単元の最後のまとめとして、「買い物」という生活の場面で4位数の加法と減法の計算の仕方を利用して、おつりのもらい方を工夫しました。

おつりの枚数をより少なくする方法をグループや全体で対話して考えることで、おつりのもらい方にはいろいろな方法があることに気付き、考えを広げていました。また、おつりが500円玉一枚で済む方法を見つけた児童の説明を聞き、100円を活用することで、おつりを減らすことができることに気付き、考えを深めていました。

振り返りでは、「わかったこと、きづいたこと、おもったこと」という視点から「100円（小銭）をうまく使うことで、おつりをより少なくすることができることが分かった」などと、自分の学びを自覚し、意味づける姿が見られました。

授業後には、四つ葉学園の先生方で「対話的活動を通して、考えを広げ、深める子どもを育成するための授業について話し合いました。三条市教育委員会の高橋将也指導主事からは、「日常生活に学習したことを生かす、学びを深める授業だった。今後も、子どもの視点を大切にした授業展開を目指して欲しい。」とご指導いただきました。



小六交流会 7月5日

第四中学校の矢木先生を迎えて、中学校体育の乗り入れ授業「陸上競技」を旭小学校で行いました。

内容は、陸上競技に必要ないろいろな動きや、クラウチングスタートの基本姿勢です。腕回し走や腰振り走など難しい動きにも意欲的に挑戦し、体育館の端から端までを一生懸命走りました。

9月には、四つ葉学園3校の陸上大会が行われます。今回の学びを生かして、自己記録更新を目標に頑張ってもらいたいと思います。



令和4年度四つ葉学園 小学校陸上記録会のご案内

四つ葉学園の3つの小学校が集まり、陸上記録会を行います。下記の通りご案内いたしますので、応援をお願いします。

記

- 1 期日 9月15日(木)
- 2 時間 9:30 開会式
11:45 閉会式
- 3 会場 三条燕総合グラウンド
- 4 種目 100m走
男子1500m・女子800m
(全員がいずれかに出場します)
選抜4×100mリレー
- 5 その他 詳細は後日、各学校よりお知らせいたします。